

# NPO 法人 長野県歯科衛生士会 諏訪支部 研修会

## 川崎律子先生 「インプラント治療を考える～DHの視点から～」

### 【名前・所属】

氏名: 川崎律子

所属: 東京都中央区 長谷川歯科医院

肩書: 歯科衛生士

### 【略歴】

1986年 歯友会歯科技術専門学校(現 明倫短期大学)卒業  
新潟市内歯科医院勤務

2009年 明倫短期大学口腔保健衛生学専攻科非常勤講師

2010年 明倫短期大学勤務

2011年 フリーランス

2012年 長谷川歯科医院勤務

### 【所属学会・資格】

- 日本歯周病学会認定歯科衛生士
- 日本臨床歯周病学会指導歯科衛生士
- 日本口腔インプラント学会認定インプラント専門歯科衛生士
- 日本顎咬合学会認定指導歯科衛生士



## インプラント治療を考える

～DHの視点から～

長谷川歯科医院

川崎律子

現在、抜歯を余儀なくされたその後の機能回復方法として、咬合支持のみならず残存天然歯の延命保存が可能なインプラント治療が多く活用されています。同時に予知性の高い治療法として存在感を強め、欠損補綴治療のオプションとして信頼性を確立してきました。またインプラント治療が高齢者の健康寿命の延伸に貢献していることに疑いの余地はありません。

しかし機能回復の恩恵を受ける患者がいる傍らで、偶発症や術後トラブルあるいは機能障害に悩む方、さらには他院で施術したインプラント患者の拒否による行き場を失ったインプラント難民患者なども存在し、まさにインプラント治療の光より影が歯科界の危機になっていることも事実です。

さらにインプラント治療は、従来型の補綴治療とは異なり非自己である異物を体内に埋め込み、これを粘膜貫通させて体外に露出させているため“新たな病態”を作っているとも言われています。私たち歯科衛生士はその“非自己”を日々奮闘しながらメンテナンスを行っていますが、どんなに確実な診断のもとで守るべきルールを守って施術されたインプラント治療であっても、周囲組織、咬合状態、そして生体は高齢化とともに刻々と変化しつづけ、良好な状態で長期に維持させることは大変難しいと痛感しています。私達はインプラント治療が及ぼす多くのリスクがあることを忘れてはならないのです。

今回は天然歯とインプラントの双方を生体に調和させて機能させ続けるために、歯科衛生士はどこに着眼すべきなのかをお話させていただきます。

日時 : 2023年10月29日(日)10:00~12:30 (休憩含む)

受付時間 : 9:30~9:50

会場 : すわっチャオ ( 上諏訪駅前 アーク諏訪3F 会議室1.2.3)

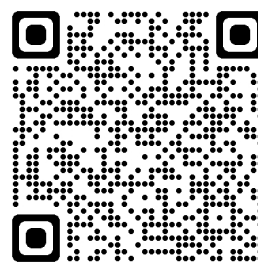
**注) 会場開催のみ、オンラインやハイブリッドなどの対応はありません**

受講料 : 長野県歯科衛生士会 会員 無料

会員外 3,000円

**\*社)日本歯科衛生士会 認定単位申請予定**

問合せ : oliver@pol7.lcv.ne.jp 支部長 小澤まで



申し込みは、専用フォームへ →

申し込み締め切り日 : 10月15日(日)

## 駐車場案内

上諏訪駅横の立体駐車場は5時間まで無料

すわっチャオ(アーク諏訪)の駐車場は料金がかかります

